

学校給食の歴史を振り返る

きたちく 25日、中地区・南地区：24日

1月24日から28日は、岐阜市の学校給食週間です。

(全国学校給食週間は24日から30日)

今年度は、食糧が十分になかった頃の学校給食献立を通して、学校給食の歴史を学びます。

これを機会にいつも食べている学校給食の始まりや意義、役割などについて考えてみましょう。

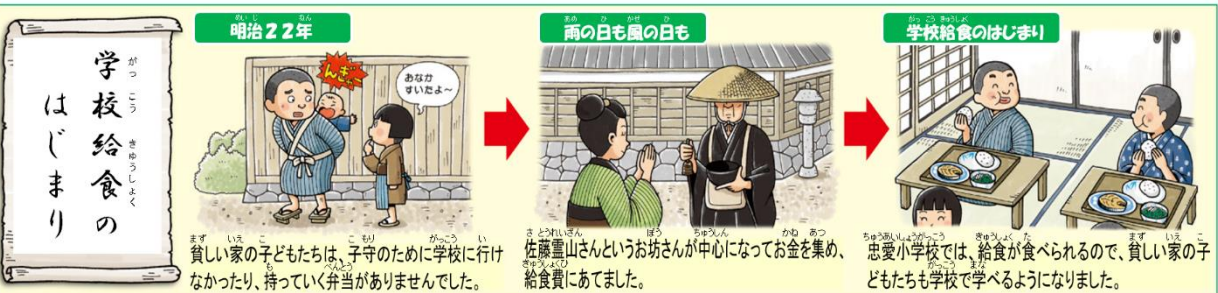
給食の歴史を見てみよう！

べいはん ぎゆうにゆう
米飯 牛乳

イワシの煮つけ

野菜のうま煮

すいとんの味噌汁



明治22年に山形県の忠愛小学校から始まった学校給食は、第二次世界大戦で一時中止になりました。戦争が終わって、昭和21年12月24日に東京都、神奈川県、千葉県の子供約25万人を対象に、学校給食が試験的に実施されました。

同じ日に、東京都麹町区永田小学校でラウ物資の贈呈式が行われました。学校給食が再開されたことを記念して、昭和25年からは1月24日からの1週間を「学校給食週間」として位置づけました。

岐阜市では、昭和26年から市内小学校の給食が開始され、昭和45年には市内全小中学校の給食が開始されました。



※ラウ物資とは、アメリカの慈善組織ラウが提供していた日本向け救援物資のこと。

*12月24日は冬休みに入る学校が多いため。

☆イワシの煮つけ

日本の漁獲高の約

40%を占めることも

あったイワシ。豊富に

獲れること、価格が安価であることから、学校給食にも活用されてきました。



☆野菜のうま煮

野菜の煮物は、ビタミンや食物せんい

を摂取できる重要なおかずです。

☆すいとんの味噌汁

すいとんは、小麦粉に塩と水を加えて作ります。食料の不足していた時代には、高価な米の代わりに

飢えをしのご貴重な食べ物でした。



**このような時代を経て、現在のよう
なバラエティに富んだ学校給食へと変わ
ってきました。**